

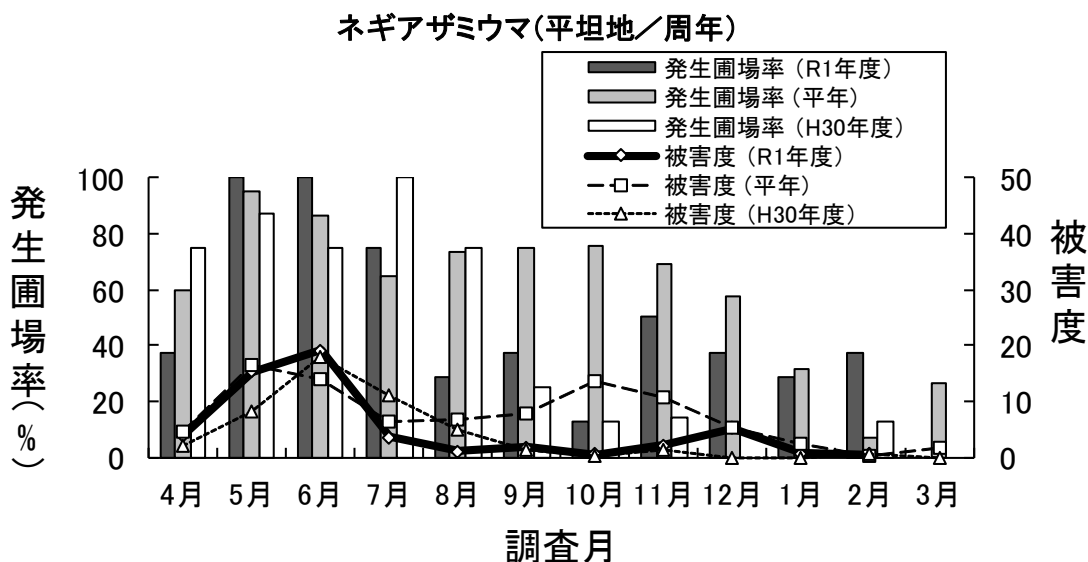
令和元年度 病害虫防除技術情報 第10号

令和2年3月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

白ネギにおけるネギアザミウマの防除対策について

平坦地（豊後高田市、宇佐市）でネギアザミウマの発生圃場率が平年や昨年より高くなっています（2月発生圃場率 本年37.5%、平年6.8%、昨年12.5%）。気象庁の1か月予報（2/20発表）では、気温は平年より高く、降水量は平年並から平年より少ないと予想されています。本年は暖冬傾向のため平年より発生が早く、今後の気象次第ではネギアザミウマの多発が懸念されますので気象情報に注意し、ネギアザミウマの発生状況に応じて防除を実施してください。

1. ネギアザミウマの発生状況



2. 防除上注意すべき事項

- 1) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長される。
- 2) 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるため、早期発見に努めて防除を行う。
- 3) 薬剤散布は曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行う。
- 4) 薬剤が付着するよう展着剤を使用する。
- 5) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

（ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>）

